

防風通聖散の減量効果に関する臨床検討

○伊藤 隆¹⁾、仙田 晶子²⁾、伊藤 朋之²⁾、青柳 晴彦³⁾、松原 史典³⁾、
豊田 隆³⁾
鹿島労災病院・和漢診療センター¹⁾、同 内科²⁾、同 薬剤部³⁾

【目的】

防風通聖散は抗肥満薬として用いられているが、減量効果に関する臨床検討は少ない。今回、減量目的にて投与した症例の経過について検討したので報告する。

【方法】

平成13年4月より平成15年2月までの期間に当センターを受診し、BMI 26.4以上の肥満を主訴とした25症例を対象とした。4例は4～8週にて通院を中断、1例は腹痛にて3日目に中止した。8週以上服薬を継続しえた20例を検討対象とした。全て女性。平均年齢 53.7 ± 14.6 歳。

17例にはカネボウ防風通聖散エキス7.5g分3食前で、3例には煎じ薬にて、それぞれ投与した。体重、BMIについて投与前と4週、8週の時点でt検定により比較した。また、服薬後に食欲低下をきたした群と変化のなかった群にわけて分散分析法により検討した。

【成績】

1)全体の検討(mean $\pm$ SE)。体重(kg)は、前 80.0 ± 2.3 、4週 79.0 ± 2.3 ($p < 0.01$)、8週 78.6 ± 2.4 ($p < 0.05$)。BMI (kg/m^2) は、前 32.9 ± 0.9 、4週 32.6 ± 1.0 ($p < 0.05$)、8週 32.4 ± 1.0 ($p < 0.05$)。ともに低下した。2)食欲低下群と不変群の体重の比較。体重は、食欲不変群10例では、前 77.6 ± 3.6 、4週 77.4 ± 3.6 、8週 77.5 ± 3.7 と変化なかったが、食欲低下群10例では、前 82.8 ± 2.7 、4週 80.6 ± 3.0 、8週 79.8 ± 3.1 と低下した($p < 0.05$)。なお服薬による肝機能障害は認めなかった。

【結論】

防風通聖散はマウスを用いた実験では摂餌量に変化なく体重を減少させ、肝臓脂質含量、白色脂肪組織重量を減少させる効果のあることが指摘されているが¹⁾、今回の結果はヒトにおける減量には食欲低下作用の発現が必要であることを示唆している。興味ある結果と考え報告する。

【文献】

1) 大野晶子ら：和漢医薬学雑誌 18,33-38,2001.